

日本共産党東京都議会議員 (厚生委員)

藤田りょうこの都政報告



連絡先 藤田りょうこ事務所 大田区西蒲田6-34-7
☎ 3736-1494 fax 3735-4522

藤田りょうこ 検索

発行 日本共産党東京都議団 新宿区西新宿2-8-1 ☎ 5320-7270

2019年
第1回定例会
(2月20日~3月28日)

14兆円の都財政を都民のくらしに

消費税増税は中止を

12月議会の代表質問にて共産党都議団は、都が消費税10%増税を前提に上下水道の利用料と都営交通の乗車料合わせて123億円の都民負担増を見込んでいることを初めて明らかにしました。くらしに直結する重大な問題であり、都の料金を値上げさせないことと同時に、国に中止を求めよう要望しました。

国保料金を協会けんぽ並みに

保険料の滞納世帯が51万世帯にも上る国民健康保険では、保険証が取り上げられるなど、命にかかわる問題につながっています。非正規の若者・高齢者・中小零細業者など加入者の多くが低所得者ですが、例えば、大田区で給与年収400万円の4人家族では保険料が年42万円以上にもなります。子どもや家族が一人増えるごとに5万1千円(大田区の場合)増える均等割が、重い負担を強いている原因であると都議団は指摘し、公費追加投入で均等割をなくす方向をめざすことを提案しました。全国知事会も、1兆円の公費投入で「協会けんぽ並み」に保険料を引き下げることが、政府・与党に求めています。

予算議会でも全力

今年2月から始まる第1回定例会は一般会計特別会計合わせて14兆6千億円にのぼる東京都の予算を決める議会になります。都民負担を増やさず、命と暮らしを守る予算編成にするよう、予算議会でも全力で頑張ります。



共産党都議団の提案で前進

学校体育館にエアコン

12月議会では、防災対策と暑さ対策推進の補正予算92億円が共産党都議団も賛成し可決しました。公立小中学校・都立高校の体育館等への冷房設置は、わが党が昨夏の猛暑をうけ、いち早く東京都に求めていたことであり、大きな成果となりました。また、代表質問にて都立高校の体育館には「3年間以内で整備することを目標にする」などの前向きな答弁がありました。近年の夏の暑さは災害並みです。設置を加速させるために、今後も全力で頑張ります。

国と米軍に訓練中止を要請

連続する 横田基地における パラシュート事故



東京都(左側)に申入れる党都議団。右列の右から6人目、藤田都議

横田基地におけるパラシュート降下訓練中、1月8日、9日と連続して、パラシュートが開かずに降下するという事故が発生したことを受け、都議団は都知事宛に申し入れを行いました。横田基地やその所属機では、2017年11月、昨年4月、12月とパラシュートの落下事故が発生、人命を巻き込む可能性のある重大事故が短期間に相次いで起きています。都議団は、原因究明と自治体への説明を行うこと、訓練を中止し今後行わないことを、都知事から直接、国と米軍に要請するよう申し入れを行いました。



区民のみなさんと共に東京都に要望



西馬込駅周辺に駐輪場の整備を

12月17日、西馬込駅の安全と環境を考える馬込



都営地下鉄・西馬込駅近くの大田区施設周辺にあふれている自転車

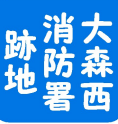
西馬込駅の安全と環境を考える馬込住民の会のみなさんとともに

住民の会（代表 本多孝子）の方とともに、小池都知事と東京都交通局長あてに駅付近の自転車駐

車場の整備促進の協力を求める要望書を提出し、申し入れを行いました。

都営浅草線の西馬込駅は、この4年間で乗降客が4371人増加しました。近隣にはマンションが増え、認可保育園も8園、増設・計画されています。区の駐輪場は1か所しかなく、とめきれな

い自転車が増え、苦情が出ています。大田区は整備の努力を行っていますが、用地確保に苦戦しています。しかし「大田区からの協力依頼は受けていない」とのことだったので、整備のために区とも連携するよう要望しました。



区民の望む施設を

山谷消防署（大森西5の17）は昨年、建て替えのために移転し更地になっています。12月27日、山谷消防署跡地利用を考える会のみなさんと一緒に、小池都知事あての要望書の提出と申し入れを行いました。

この地域では高齢者の独り暮らしが増加し、集会所や高齢者住宅の要望が多い一方、保育園の待機児童対策も求められています。マンションの建設は止めてほしいとの意見もありました。申し入れでは「消防庁内での検討を2018年度内に行い、速やかに方向性を決

山谷消防署跡地利用を考える会のみなさんとともに

めてほしい」と要望しました。

現在土地を所有している消防庁としては、2019年度内に管内での利用の有無について検討し、目的が無ければ財務局に

移管され、全庁的に検討されると説明を受けました。



「山谷消防署跡地利用を考える会」の皆さんと東京都に要望する藤田都議（右）＝12月27日



身近な地域で子育て支援の充実を

12月14日、厚生委員会にて「児童虐待防止条例骨子（案）」

と、児童虐待死亡事例等検証部会報告書への質疑を行いました。

日本では大人の約6割が「体罰を容認」している現状から、骨子案の中に「体罰等の禁止」を盛り込んだことは重要です。

一方で、子どもをたたいたりどなったりしない子育てをしたいが、実践は難しい、あるいはその方法が分からないと思っ

ている保護者も少なくありません。体罰等の禁止とともに、都民への普及啓発を進めること、母子保健サービスなど保護者への支援を強化し

ていくことを求めました。

大田区のとらぐみ

仲六郷子育てひろば内覧会に出席

子育てを支える取り組みは、だれでも気軽に行えて、身近にあることが大切です。大田区では子育てひろばを区内の地域ごとに設置しています。子どもと一緒に遊んだりランチができたり、ママ友とながれたり、育児の相談や専門的な相談もできます。経済面や周囲の目が気になる親にとって欠かせない場所です。

ベビーカーで歩いていけるよう施設を



【写真上】厚生委員会で質疑する藤田都議（12月14日）

【写真下】仲六郷子育てひろばの内覧会で。右側、藤田都議



略歴



- 1974年8月11日生。東京都大田区出身。
- 1996年東京都立医療技術短期大学看護学科卒。20年間、看護師として従事。
- 2017年東京都議会議員選挙に初当選。都議会厚生委員●池上在住。

都政へのご意見、ご要望をお寄せください

増やすと同時に、知識と経験が豊富なスタッフの育成が必要です。東京都からの支援をさらに充実するよう、要望してまいります。